

善教寺宝物

『宮内省献本通牒他』

解説 久保 彰

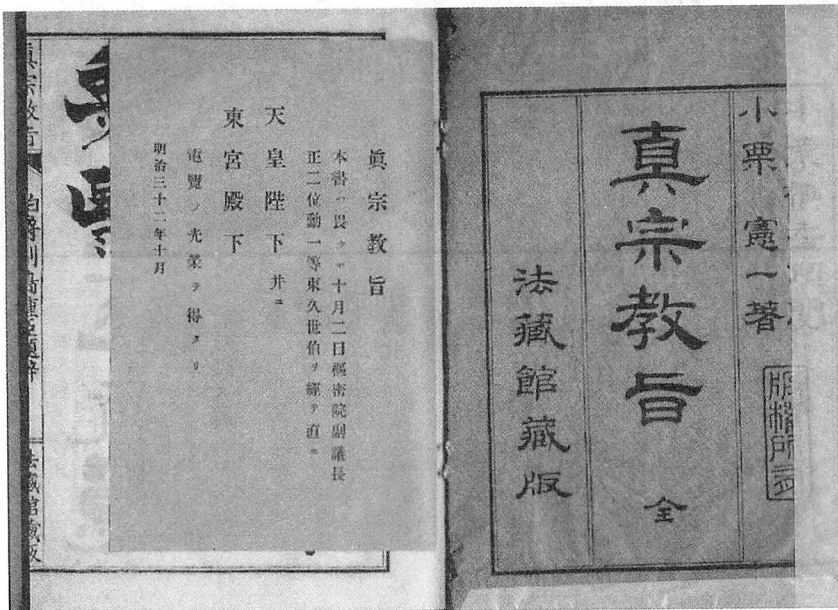
佐藤 巧三

【解説】

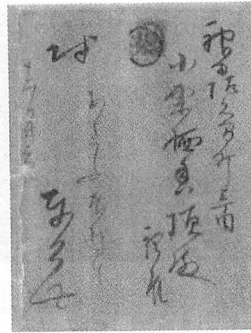
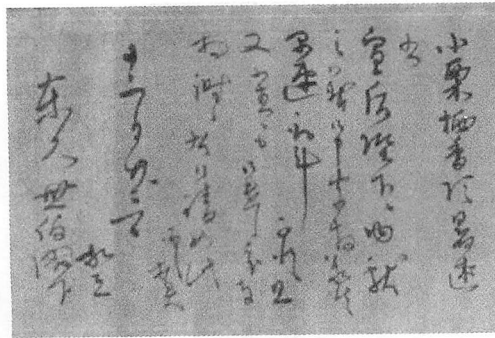
この一卷に納められた書簡集は、小栗栖香頂・小栗憲一兄弟が「真宗興隆縁起」や「真宗教旨」を撰著して明治天皇三陛下へ献上したときの関係文書類である。

先ず第一に弟憲一の功績を讃えた兄香頂の誌文、第二に明治二十五年「真宗興隆縁起」を献上したときの宮内大臣土方久元の通牒他、第三に明治三十二年「真宗教旨」を献上したときの宮内大臣田中光頭の通牒である。

宮内省で受理された書面は枢密院副議長長東久世通禰に通知された。この東久世通禰は自分の愛友であると蓮舶（香頂の号）は記している。これらの文書類は戸次妙正寺の小栗栖香頂から善教寺の弟小栗憲一に届けられたものである。







(四)封書宛名書

神田佐久間町三丁目

小栗栖香頂殿

親展

封 あさふ本村て

東久世

十二月廿六日

(五)小栗栖香頂著述

右

皇后陛下へ内猷之趣

御申聞、拝承仕候。

早速取計可仕候。且又、

小生へも御遣し被下事

拝謝候。右御請如此

草々拝具

十二月廿三日

敬三

東久世伯閣下

(六)蓮船(香頂)の記録

宮内大臣従一位勲一等子爵其金夫人者賢婦人会副長也  
土方久元は土佐の人なり。

杉孫七郎は長州の人也。

皇太后宮大夫従三位勲二等子爵  
皇居宮大夫兼大膳大夫従三位勲二等子爵  
香川敬三は常陸の人也。

機密院副議長従一位勲一等伯爵是真会々長  
東久世通禧は脱走七脚

の一なり。皆王政復古

の主唱者にして余老僧

の愛友なり。後日の為

に記す。

久元已下勲爵依宮内省外事課長日高秩父  
明治廿六年十一月廿五日之調査記焉  
城陽生觀梁書(印)

歩々光頂際

聲々揃殿中

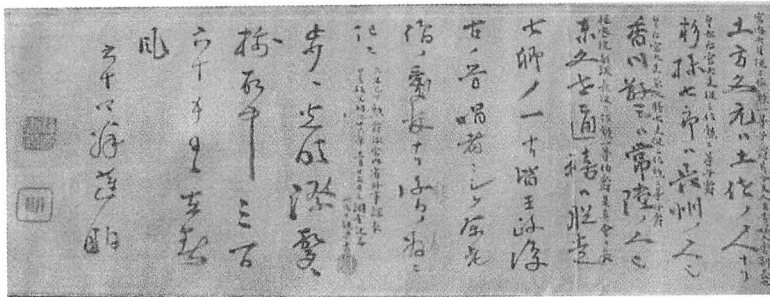
三百六十五

日々在春風

六十五翁蓮船

(落款)

敬三



一「真宗教旨」二冊  
小栗憲一著述  
 右小栗栖香頂ヨリ  
 天皇陛下  
 皇太子殿下へ献上願出ノ  
 趣ヲ以テ傳獻被致候ニ付  
 御前へ差上候此段申入候也  
 明治三十二年十月四日  
 宮内大臣子爵田中光顯  
 樞密院副議長伯爵東久世通禧

樞密院副議長伯爵東久世通禧  
 宮内大臣子爵田中光顯

東京高木政勝以此歷報長公之賜之予余  
 三十一年十一月日記  
 憲一(花押)

(七)「真宗教旨」伝獻通牒  
 一「真宗教旨」小栗憲一著述二冊  
 右小栗栖香頂より  
 天皇陛下  
 皇太子殿下へ献上願出の  
 趣を以て傳獻いたされ被致候に付  
 御前へ差上候このだんろうしれ此段申入候也。  
 明治三十二年十月四日  
 宮内大臣子爵田中光顯  
 樞密院副議長伯爵東久世通禧  
 殿



小栗憲一(布岳)肖像画

- 【小栗栖香頂著書】
- 真宗教旨 明治9・12 真宗東派本願寺教育課
  - 喇嘛教沿革 明治10・2 臨犀樓藏
  - 真言宗大意 明治10・3 石川舜台
  - 仏教十二宗綱要 明治19・12 仏教書英訳出版会
  - 三経宗体 明治25・1 真宗講話会
  - 見真大師の精神 明治26・9 日新館
  - 朝家の御為 明治26・29 哲学書院
  - 晩年私言 明治32・8 博文館
  - 大学仏解 明治40・9 法文館
- 他